

1. 主題構成表

主題名 責任を果たす

資料名 海の勇者 出典：(文溪堂)

■内容項目 C-(16) よりよい学校生活、集団生活の充実
(高) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。

■価値の分析

- ・「責任を果たす」とは、自分の役割を自覚して、主体的に行動することである。
- ・高学年では、高学年としての自覚をもち、学級や学校、身近な集団を愛する心を具体化できるようにすることが必要である。特に、集団の向上に資する役割や協力して取り組んでこそ達成できることなどを自覚することが重要である。
- ・この時期の児童は、学級内の係、児童会やクラブなどの異年齢集団における自分の役割は理解しているが、やらなければならないことが他にもあるから、誰かがやってくれるからと、逃げてしまう傾向がある。そこで、集団を支えているのは自分たち自身であると気付かせるとともに、自分の役割を最後まで果たそうとする気持ちを育てたい。弱い心に負けることなく、最後まで責任を果たそうとする心情を育てたい。

■内容項目から見た児童の実態

(意識)

- ・学校行事や委員会・クラブ活動など、様々な場面で責任ある役割を任せられるようになり、責任を果たそうと努力する姿がみられるようになってきた。
- ・自分から進んでというよりも言われたことをこなすという指示待ちの児童が多くみられる。

■要因

- ・役割を果たさなければならぬことは分かっているものの、集団を支えているのが自分達であるという自覚が弱い。
- ・自分が責任を果たすことで集団生活がよくなった、やりきったという達成感や満足感を味わった経験が少ない。

■資料の分析

- ・本資料は、嵐にあったエンタプライズ号のカールセン船長が乗客と船員を救命ボートに避難させた後、救助船に発見されるまでの1週間、一人でその役割と責任を全うし、船は沈んでしまうのかかわらず、多くの人にその行動を称えられ迎えられるという話である。極限状態のもと、命をかけてカールセン船長のとった行動は児童に感動を与えるにちがいない。
- ・船長がたった一人でかじを握っている時の気持ちを考えることで、不安は残るが強い責任感に気付くことができる。
- ・さらに、沈んでいく船を見ながら、海に飛び込む船長の気持ちを考えることによって、できる限りやりきったが役割を果たせず悔し思いに気付くことができる。
- ・船を沈めたのにもかかわらず、皆から温かく迎えられた時の気持ちを考えさせることで、大切なのは、結果ではなく、最後までがんばることであり、自分の生活の中でも最後まで責任を果たしたいという気持ちが育つと考える。

■ねらい

自分の役割を自覚し、できる限りの努力をして責任を果たそうとすることで、集団の役に立つことや、やり遂げることのすばらしさに気付く、最後まで責任を果たそうとする心情を育てる。

■他の教育活動との関連

■事前 修学旅行

一人一人が、自分の役割をもって行動し、やりきった時の達成感を振り返る。

■本時

「海の勇者」

■事後 学活「2学期の宝物見つけ」

学級目標の達成を目指して、最高学年として、委員会や係、ふれあい班などで成長した姿を確かめる。

■「私たちの道徳」の活用(授業前・授業中・授業後・活用しない)

(活用の仕方)「集団の中で自分の役割と責任を果たす」(P142、143)で、事前に、集団の中での自分の役割を記入し、確認しておき、授業の導入や終末で使う。

2. 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	◇集団の中での役割について話し合う。 ○集団の中でのあなたの役割は、何ですか。 ・委員会、係、家族、その他（スポーツ少年団、分団） ○資料中の日時や場所、船の名前、主人公などについて理解する。	・「私たちの道徳」p143へ事前に記入した内容を発表する。 ・集団生活の中で、誰もが役割を担っていることを確認し、ねらう価値への方向付けをする。 ・資料中の場面設定や、主人公について貨物船の船長であることと船長の役割をおさえる。
展開 前 段	◇資料を読んで、話し合う。 ○感想を交流する。 ・船を最後まで守った船長がすごい。 ・一人残ったところがすごい。 ・頑張って守った船が沈んで残念。 ○たった一人でかじを握りながら、どんなことを考えたか。 ・さみしい。不安。 ・この船を守るのは、私の役目だ。 ・乗客はみんな助かったらうか。 ・自分も、ボートに乗ればよかった。 ◎沈む船を見ながら、海に飛び込む時、船長はどんなことを考えていたか。 ・残念だ。 ・16日間嵐と闘ったけど、精一杯やったから仕方ない。 ・なんとかして船を助けたかった。 深めの発問 船長は、責任を果たすことができたか。できなかったか。 ・船が沈んでしまったので、責任は果たせなかった。 ・船は沈んでしまったが、最後まで船を守り続けたので、責任は果たせた。 ○大勢の人々に迎えられたとき、どんな気持ちだったか。 ・最後まで、頑張ってよかった。 ・船が沈んでしまって、申し訳ない ・自分にやれるだけのことはやりきった。 最後まで責任を果たそうとする心	・感想の観点として「すごい」「残念」「わかる」と思ったところに線を引かせる。 ・挿絵を提示して、場面の様子を捉えさせる。 ・不安はあるが船長としての役割から船を守ろうとした責任感に気付かせる。 ・時間の経過を確認した上で、船長の気持ちを考えさせる。 ・ダンジの「みんなも助かりました。」という言葉から、乗客の命を守る役割を果たせたことを確認する。 ・人に任せず、最後まで自分で船を守ろうとした強い責任感とやるだけのことはやったので悔しいけれど仕方がない結果だったことに気付かせる。 ・深めの発問を通して、船が沈んだので船を守るという役割が果たせなかったけれど、「責任を果たす」ことができたかどうかについて自分自身の考えを明確にする。 ・船長を迎える大勢の人々の気持ちも考えさせ、最後まで責任を果たそうとしたことを、認め喜んでくれたことを押さえる。 ※集団生活の中で、自分の役割を最後まで果たそうとする意欲をもつ。
展開 後 段	◇本日の価値に照らして、自分の生活を振り返る。 ○この話から学んだこと自分の役割について、がんばっていることや、そのときの気持ちを書きましょう。 ・JRC委員会でスリッパそろえを頑張っています。みんなが揃えてくれないと、やりたくなくなりますが、あきらめずに揃え続けていきたいです。気付いてそろえてくれる人が増えるといいと思います。	・「道徳ノート」に主人公の生き方から自分が学んだことや自分の役割についての思いを書かせる。 ・うまくいかないことがあっても自分にできる限りの努力をしていることを振り返らせる。
終末	◇児童のよい姿を紹介する。	・自分の役割を最後まで責任を果たしていこうとする今後の実践意欲を高める。

※人権教育の観点